

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 9月4日

【評価実施概要】

事業所番号	〃0170401368
法人名	株式会社 ツクイ
事業所名	ツクイ札幌稲穂
所在地	札幌市手稲区稲穂3条4丁目5-37 (電 話) 011-686-5500
評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成 21年 8月 17日

【情報提供票より】(21年 8月 17日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	16.3 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱費20000円
敷 金	無し		暖房費(11月~3月)15000円
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(45,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8月 17日現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1		名	要介護2	3 名	
要介護3	9 名		要介護4	5 名	
要介護5		名	要支援2		名
年齢	平均 83.5 歳	最低 71 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 ひまわり会 札幌病院 ・ さくらデンタルクリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成17年に開設、手稲の小高く見晴らしの良い住宅地に立地しています。「利用者全員が、家庭と想って暮らしていただきたい」という、管理者や職員の想いが伝わる、明るい笑顔のあるグループホームです。建物は、4階建てで、1階は訪問介護、デイサービス、2階・3階にグループホーム、4階に小規模多機能居宅介護があります。各サービス職員は、連携を図り、色々な行事等を通して交流がなされ、一丸となり日々のケアに取り組まれています。ホームの地域での役割や責任を自覚し、災害時に地域の避難場所の拠点となることを、運営推進会議で話しあうなど、地域貢献に意欲をしめされております。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘のあったホーム理念の地域への啓発・広報については、広報の担当者を決め、運営推進会議等を通して理解して頂くための取組みが進められています。気軽に入れる玄関まわり等の配慮は、草花や野菜のプランターを置いたり、玄関にホームへの案内表示を設置する等の工夫が見られます。注意が必要な物品の保管・管理については、安全な保管場所の確保がなされています。ホーム機能の地域への還元は、現在、お茶会・介護教室・夏祭りを計画し、実現に向け取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、管理者が全職員に聞き取りをし、作成されています。作成された自己評価は、ミーティング等で報告がなされています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されており、ご家族、町内会役員、地域包括支援センターの職員、民生委員等多数の方々が参加し、利用者の日常生活の様子や行事内容、事故報告事例等を発表し、忌憚のない意見をもらうことで、サービスの質の向上に努めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、利用者の日常の様子や身体状況、おこづかい明細、行事写真、グループホーム通信などを郵送でご家族に報告しています。利用者への日々の声かけ、利用者ご家族の来訪時の声かけにより、気軽に意見、要望が言えるよう配慮がなされています。また、内部・外部の苦情・相談受付に関する掲示や重要事項説明書への明記もあり、運営推進会議においても、要望・意見等を含め話し合いがなされています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、回覧板を通して、また、町内会行事に参加し、顔見知りの関係を構築し交流を図っています。また、地域の方に、運営推進会議に参加してもらい、グループホームへの協力や理解が得られるように努めています。毎年の七夕行事には、近所の小学生の来訪があり、利用者と一緒に歌を唄うなど楽しまれています。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を元に、開設時の職員が話し合い、作成されています。地域密着型サービスとしての理念の見直しは行われていません。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域や利用者のニーズ、事業所の状況変化によって、現状にあった理念を見直していく機会を作られることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修時に職員も参加し、理念について話し合い意識づけがなされています。また、ミーティング等でも理念に触れ、確認がなされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、回覧板を通して、また町内会行事に参加し、顔見知りの関係を構築し交流を図っています。また、地域の方に、運営推進会議に参加してもらい、グループホームへの協力や理解が得られるように努めています。毎年七夕行事には、近所の小学生の来訪があり、利用者と一緒に歌を唄うなど楽しんでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘のあった理念の地域への啓発・広報は、広報担当を決め、運営推進会議を通して理解して頂くための取組みが進められています。玄関まわり等の配慮は、草花や野菜のプランター、ホームへの案内表示の設置等の工夫が見られます。注意が必要な物品の保管・管理は、安全な保管場所の確保がなされています。ホーム機能の地域への還元は、お茶会・介護教室・夏祭りを計画し、実現に向け取り組まれています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催されており、ご家族、町内会役員、地域包括支援センターの職員、民生委員等多数の方々が参加し、利用者の日常生活の様子や行事内容、事故報告事例等を発表し、忌憚のない意見をもらうことで、サービスの質の向上に努めています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との行き来する機会は少ないが、困難な事例などについて、相談しやすい関係は構築されています。年1度の手稲区ふれあいフェスティバルでは、介護相談、健康チェック、お薬相談、講演会、各施設見学会等に参加し、交流を深めています。また、市からの実習生の受入れも積極的に行われています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の日常の様子や身体状況、おこづかい明細、行事写真、グループホーム通信などを郵送でご家族に報告しています。また、状況変化のあった場合については、ご家族の来訪時や電話などでも報告に努めています。	○	状況の変化のない場合についての、ご家族への報告方法について更に、検討されることを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者への日々の声かけ、利用者ご家族の来訪時の声かけにより、気軽に意見、要望が言えるよう配慮がなされています。また、内部・外部の苦情・相談受付に関する掲示や重要事項説明書への明記もあり、運営推進会議においても、要望・意見等を含め話し合いがなされています。意見箱の設置がされています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が働きやすく、意見が言いやすい環境作りに努めています。事業所内の異動が決まった場合は、各ユニットを行き来し、馴染の関係を築くなどの配慮がなされています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受講した職員は、伝達研修で報告し、職員間の共有を図っています。新人採用時には必ず先輩職員が一定時期指導を行いケアの統一に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	手稲区の管理者連絡会に出席し意見交換しサービスの質の向上に努めています。また、法人全体の各事業所の見学会や他のグループホームの見学を受け入れ、情報交換を行い交流を深め、向上に努めています。	○	職員が他法人の事業所を見学し、日々のサービスや職員育成に役立つ意見交換等を行ない、サービスの向上に繋がることを期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族に、グループホームを見学してもらい、一緒にお茶やレクリエーションに参加し少しずつ慣れ親しんで自然な入居へ繋がるよう努めています。また、小規模多機能を利用してから、グループホームに移る方もおられます。やむを得ず開始された場合にも、ご家族の来訪を多くしてもらい、時間をかけて状況に応じた対応に努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者さんから漬け物の漬け方、山菜の処理の仕方、将棋などを教えてもらったり、職員が落ち込んでいたときは励ましてくれたりして、共に支え合う関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの担当職員を決め、日々の生活の中で、利用者の希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活支援を行っています。ミーティング等を通して、職員間で情報の共有がなされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者やご家族の意向を聴きながら、3ヶ月に一度モニタリングを行い、介護計画の話し合いがなされています。各担当者からの情報を基に、職員全員の意見交換を経て、作成されています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しが行われています。又、状況に変化があったときには、都度話し合いを持ち、見直しが行われています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・ご家族の希望や状況に応じて、通院、外出、買い物、外食等、出来る限りの柔軟な対応に心掛けて支援がなされています。家族の方が利用者を自宅に連れてきてほしいときは、車椅子対応の車で送迎しています。		
ie					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関から、月に1回の往診が行われています。かかりつけ医に定期的に受診し、協力医との連携もとれています。また、職員全員が情報を共有し、利用者の健康管理に努めています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、看取り医療について検討しています。また、その状況になった場合に、利用者、家族、医師、管理者、職員と話し合いがなされ、方針を共有しながら対応する体制になっています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修時に個人情報の取り扱いに関する指導がなされています。また、利用者個々を十分に把握し、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、ミーティング等で話し合われ、ケアの統一が図られています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての1日の基本的な流れはあるが、利用者個々のリズムや体調に合わせ、早く起きる人、遅く起きる人などその人らしい生活を送れるように支援しています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができるよう雰囲気作りがなされています。また、月1回の外食行事の取り入れや、色彩・盛り付けも工夫し、食事を1日の大切な活動のひとつにしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助が必要な方は、週2回から3回、午後からの入浴がなされ、介助が必要でない方は、希望通りの曜日、時間帯に入浴がなされています。入浴を拒否される方へは、主治医等に声かけの協力をしていただくなどの工夫がなされています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に一度の外食を兼ねた外出行事やドライブ、カラオケ、音楽療法などの楽しみの支援、また、食事の準備や片付け、ブラインド閉めやチラシの箱作り等、それぞれの活躍の場の支援を行っています。また、レクリエーションで、ホーム内の季節の飾り物作成なども行われています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺が坂道で散歩しにくい環境にあるので、周辺の散歩はむずかしいが、近隣公園での散歩や外出行事やドライブ、買物の同行など、外気を取り入れた生活ができるように努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行われていません。外出傾向にある利用者への見守り、声かけを運営推進会議等で話し合われています。出入口の暖簾に鈴をつけるなど工夫がなされています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、利用者も数名参加し、避難訓練が行われています。避難方法のシミュレーション研修はなされていますが、毎年の訓練に職員全員の参加には至っておらず、今後の課題となっています。地域の協力体制については、運営推進会議で話し合いがなされています。	○	全職員が消防訓練等を受け、緊急時に対応できるように、定期的かつ継続的に行われることを期待します。救急救命講習を受けていない職員もいるので、その必要性に鑑み、なるべく早期に全職員が受講できるよう期待します。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成した献立表を元に調理され、栄養バランスや栄養摂取量等の把握に努めています。利用者一人ひとりの水分摂取量、食事量などは個別に記録され、職員間で共有されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔なフロアには数カ所ソファが置かれ、くつろぐスペースがあり、居間や廊下と一直線につながっています。気になる臭いや音もなく温度や湿度の配慮もされており、適宜調節されています。また、季節を感じることができる飾り物などがあり、利用者が居心地よく過ごせる空間となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、利用者個々の使い慣れた家具や写真、仏壇が自由に持込まれ、家庭の延長的雰囲気の中、自分らしく配置されています。		